

SBS²⁰¹³カップ 国際ユースサッカー

最終日

2013SBS杯国際ユースサッカー(日本サッカー協会、県サッカー協会、静岡新聞社・静岡放送主催、エコパスタジアム)は18日、最終戦2試合を行った。U-18(18歳以下)日本代表は優勝を懸けて戦った静岡ユースを1-0で破り、3戦全勝。勝ち点9で2年連続の優勝を飾った。静岡は勝ち点6で2位。U-18ロシア代表はPK戦でU-18ウルクアイ代表を下し、3位となった。

	日本	静岡	ロシア	ウルクアイ	勝ち点
日本	-	1-0	4-0	2-0	9
静岡	0-1	-	3-2	1-0	6
ロシア	0-4	2-3	-	1-1 (PK5-4)	2
ウルクアイ	0-2	0-1	1-1 (PK4-5)	-	1

きのこの結果
日本1-0静岡
ロシア1-1ウルク
アイ
(PK5-4)
▽最終順位①U-18日本代表 勝ち点9
②静岡ユース 同6
③U-18ロシア代表 同2
④U-18ウルクアイ代表 同1

日本、終了間際に一撃



チーム一丸、攻め貫く

U-18日本代表が最後まで攻めの姿勢を貫いた。後半終了間際、宮市がボールを奪い、北川につないだ。途中出場の人で作った好機。中盤から長い距離を走ってラストパスを受けたボランチの川辺が、右足で決勝ゴールを流し込んだ。

3試合連続無失点で成し遂げた連覇。J1磐田などで指揮を執った鈴木監督のコンセプトは「世界で勝ち抜くため、ボールを奪いにいく」。チームの約束事に、なぜぞつするのかが丁寧に説明しながら、チームをまとめていった。

最終ラインをまとめた

U-18日本代表が最後まで攻めの姿勢を貫いた。後半終了間際、宮市がボールを奪い、北川につないだ。途中出場の人で作った好機。中盤から長い距離を走ってラストパスを受けたボランチの川辺が、右足で決勝ゴールを流し込んだ。

3試合連続無失点で成し遂げた連覇。J1磐田などで指揮を執った鈴木監督のコンセプトは「世界で勝ち抜くため、ボールを奪いにいく」。チームの約束事に、なぜぞつするのかが丁寧に説明しながら、チームをまとめていった。

最終ラインをまとめた

ロシア、PK戦で辛勝

日本遠征「良い経験」

位を確保したロシアのウリヤノフ監督は「拮抗(きっこう)した試合で、どっちかが勝つてた。指揮官は「ここま



で遠い国に遠征したのは初めて。良い経験になった」と総括した。一方、ウルクアイはパワーあふれる攻撃力を見せつけながら3連敗。ゴイト監督は内容には満足しているが、今日もゴールを決めることができなかった」と悔しげだった。

U-18ウルクアイ代表U-18ロシア代表 前半4分、ロシア・タウイドフ(左から2人目)がPKを決め先制する。エコパスタジアム

静岡、一瞬の隙突かれる



静岡ユースU-18日本代表 後半、相手DFと競り合う静岡ユースの上原(左)エコパスタジアム

静岡ユースが県代表の誇りを見た。「負けていなかった。最高のゲーム」。廿日岩監督は同年代の日本と優勝を懸けて最後まで互角に戦った選手への健闘をたたえた。

相手の攻撃の起点。金子をボランチ榎木を中心に抑え、「プラン通り守れた」(廿日岩監督)。しかし、後半残り1分。前がかりになった一瞬の隙を狙われた。中盤でボールを奪われ、カウンターか

互角の戦い誇りに

ら失点。主将の鈴木は「いい流れだった。リスクマネジメントができていたら」と顔をしかめた。

チームの身上でもある前線からボールを奪い、テンポ良く攻撃につなげるスタイルはこの日も健在だった。相手DFの背後に再三抜け出しゴールに迫った中野は「あそこを決められる選手にならないと。通用する部分があった」と唇をかん

しさと責任を感じてきた」と振り返る。静岡のユニホームを着て戦った充実感と敗れた悔しさを胸に刻み、新たな目標に向かって飛躍する。

(岡田拓也)

ハイライト

U-18日本代表が最後まで攻めの姿勢を貫いた。後半終了間際、宮市がボールを奪い、北川につないだ。途中出場の人で作った好機。中盤から長い距離を走ってラストパスを受けたボランチの川辺が、右足で決勝ゴールを流し込んだ。

3試合連続無失点で成し遂げた連覇。J1磐田などで指揮を執った鈴木監督のコンセプトは「世界で勝ち抜くため、ボールを奪いにいく」。チームの約束事に、なぜぞつするのかが丁寧に説明しながら、チームをまとめていった。

最終ラインをまとめた

静岡ユースU-18日本代表 3試合連続無失点に貢献したU-18日本代表の三浦(右)

エコパスタジアム